

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成26年2月27日(2014.2.27)

【公開番号】特開2012-139391(P2012-139391A)

【公開日】平成24年7月26日(2012.7.26)

【年通号数】公開・登録公報2012-029

【出願番号】特願2010-294254(P2010-294254)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 3 4

A 6 3 F 7/02 3 2 6 Z

【手続補正書】

【提出日】平成26年1月15日(2014.1.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

個体識別情報を記憶した遊技機用演算処理装置を有する制御装置を備えた遊技機において、

前記遊技機用演算処理装置は、ユーザプログラムを記憶するとともに、該ユーザプログラムに係る固有情報をユーザプログラムでアクセス不可能なアクセス禁止領域に記憶する記憶手段を有し、

前記個体識別情報は、第1個体識別情報と、前記第1個体識別情報と異なる第2個体識別情報からなり、

前記第1個体識別情報及び前記固有情報は、ユーザプログラムを介して読み取りが可能に構成される一方で、前記第2個体識別情報は、ユーザプログラムを介して読み取りが不可能に構成され、

さらに、前記第1個体識別情報は、ユーザプログラムを介して外部情報端子から、遊技機外の外部装置側へ出力可能に構成される一方で、前記第1個体識別情報と前記第2個体識別情報及び前記固有情報は、前記外部情報端子と異なる所定の検査端子から出力可能に構成されていることを特徴とする遊技機。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 4】

しかしながら、ガラス枠等が開放されたことを示す信号を出力しているだけでは、遊技機に対して不正された可能性があることを報知することはできるが、遊技機用演算処理装置を有する制御装置に対する不正の可能性が高いことを外部に報知可能なものとはなっていなかった。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0005】

そこで本発明は、上記問題点に鑑み、遊技機用演算処理装置を有する制御装置に対する不正の可能性が高いことを外部に報知可能な遊技機を提供することを目的とする。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

請求項1に記載の遊技機は、個体識別情報を記憶した遊技用演算処理装置を有する制御装置を備えた遊技機において、

前記遊技機用演算処理装置は、ユーザプログラムを記憶するとともに、該ユーザプログラムに係る固有情報をユーザプログラムでアクセス不可能なアクセス禁止領域に記憶する記憶手段を有し、

前記個体識別情報は、第1個体識別情報と、前記第1個体識別情報と異なる第2個体識別情報からなり、

前記第1個体識別情報及び前記固有情報は、ユーザプログラムを介して読み取りが可能に構成される一方で、前記第2個体識別情報は、ユーザプログラムを介して読み取りが不可能に構成され、

さらに、前記第1個体識別情報は、ユーザプログラムを介して外部情報端子から、遊技機外の外部装置側へ出力可能に構成される一方で、前記第1個体識別情報と前記第2個体識別情報及び前記固有情報は、前記外部情報端子と異なる所定の検査端子から出力可能に構成されていることを特徴とする。

【手続補正5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

本発明によれば、当該遊技機用演算処理装置を有する制御装置に対する不正の可能性が高いことを外部に報知可能となる。